

Title	ネット・コミュニティの成長と進化 - 電子掲示板のログデータ分析から考察する成長のメカニズムと進化のパターン-
Sub Title	
Author	長谷川伸也(Hasegawa, Shinya) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1707号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1707">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1707</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	高木研究会	学籍番号	80028661	氏名	長谷川 伸也
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;"><b>ネット・コミュニティの成長と進化</b>          ー電子掲示板のログデータ分析から考察する成長のメカニズムと進化のパターンー</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論文は、インターネット等のオンライン上で不特定多数の参加者が集い、参加者同士が発言という行為によってその相互作用を積み重ねる“場”であるネット・コミュニティについて、電子掲示板を事例としてその成長と進化における様相の考察を試みたものである。成長とは単位時間あたりの発言数が増していく状態、つまりコミュニティとして規模が大きくなっていく状態であり、進化とは成長の道程、つまりコミュニティにおける時系列での成長過程である。</p> <p>本論文では今日においてこのようなネット・コミュニティを活用する（接する）状況が多くなったビジネス環境を鑑み、手先の活用手法ではなく、その成長のメカニズムおよび進化のパターンという根本部分の解明に関する調査分析を行う。そして調査分析の結果から一般化できる事柄を抽出し考察を加えることでネット・コミュニティのビジネス活用に向けて有用な示唆を企業に対して与えることが本論文の目的である。</p> <p>本論文における調査分析手法としては、インターネット上において公開されている電子掲示板のログデータを採取し、数値データとして加工編集を行い、その集計結果および各データ間の相関値を分析した上で考察するという手法を用いた。</p> <p>調査分析の結果から、ネット・コミュニティの基本的な成長のメカニズムとして、第一により多くの参加者（発言者）の存在が成長に向けて必要であること、第二にその立ち上がりから極めて短期間における成長度が後々の成長度に強い影響を与えていること、第三にその立ち上がりから極めて短期間の間に不特定多数に共有される脈絡形成が行われることが成長に向けて必要であること、第四に発言頻度にもとづく参加者（発言者）の階層でより上位の階層での発言数の多さが成長に影響を与えていること、が導き出された。</p> <p>また、進化のパターンとして、前述の基本的な成長のメカニズムに従うものに加え、時間の経過に従ってより成長の度合を強めていくもの、時間の経過に従ってより成長の度合を弱めていくもの、という3通りの進化のパターンが発見できた。そして、コミュニティ内部でやりとりされる行為（発言）の連鎖頻度、やりとりされる行為（発言）の範囲の程度がその進化のパターンに影響を与えていることが導き出された。</p> <p>最後に、導き出された成長のメカニズムと進化のパターンをフレームワークとしてまとめ、企業がネット・コミュニティを自社のビジネスに活用する場合において有用な示唆となるよう、その応用の可能性についての提言を行った。</p>					